

## 第2回クラーク博士別れの日 記念パネル展を開催

札幌農学校(現北海道大学)の初代教頭ウイリアム・スミス・クラーク博士が、1877(明治10)年4月16日島松沢で学生達との別れで「青年よ 大志を懐け“Boys, be ambitious!”」の名言を残し、馬に乗って旅立ちました。クラーク会では、この日を記念して昨年に引き続き、「クラーク博士別れの日記念パネル展」を4月15日～18日の期間でエルフインパーク広場において開催しました。

クラーク博士の別れの日様子は、教え子で札幌農学校第1期生大島正健の著書『クラーク先生とその弟子たち』に次のように書いています(原文のまま)。

### ◀馬上の訓言

明治10年4月16日、日本政府との契約期限が満ちたクラーク先生は、再びマサチューセッツ州立農学校々長の職に復帰すべく、うしろ髪を引かるる思いで札幌を辞し、室蘭経由で復帰の途につかれることになった。その朝名残りを惜しむ職員生徒一同は、先生の官舎であった創成川のほとりの元開拓使本陣前に勢揃いをして記念の写真を撮り、思い思いに肥馬に跨り、恩師の跡を追い、千歳街道をどこまでも追って行った。札幌の南6里島松駅に達するや、先生は馬をとめて駅通中山久蔵氏の家に入って休憩し、先生をかこんで別れがたなの物語にふけている教え子達一人一人その顔をのぞき込んで、「どうか一枚の端書でよいから時折消息を頼む。常に祈ることを忘れないように。愈御別れじゃ、元気に暮らせよ。」と言われて生徒一人々々握手を交わすなりヒラリと馬背に跨り、

“Boys, be ambitious!”

と叫ぶなり長鞭を馬腹にあて、雪泥を蹴って疎林のかなたへ姿をかき消された。・・・»



写真：パネル展の全景

今回のパネル展では、昨年末に星槎道都大学美術学部特任教授安田裕三画伯に描き上げていただいた、油彩画『別れを告げる馬上のクラーク博士』の紹介をメインにして、

- (1) クラーク博士の教え子大島正健の著書『クラーク先生とその弟子たち』の紹介
- (2) クラーク会が主催した講演会やシンポジウム、バス見学会などの紹介
- (3) 小中学校の生徒向けに作成したクラーク精神普及講話資料の紹介
- (4) 「きたひろTV」が製作したクラーク博士に関するビデオの放映など

を展示しました。

わずか4日間のパネル展でしたが、延べ416名の来場者に見に来て頂き、クラーク博士に対する関心の高さがうかがえました。会では、今後もこのようなイベントや講演会・見学会などを企画したいと思っております。



写真：パネル展の様子